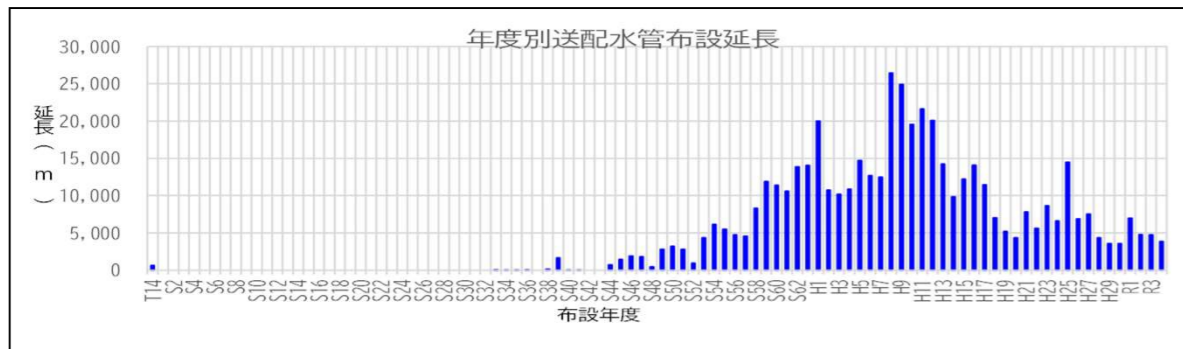
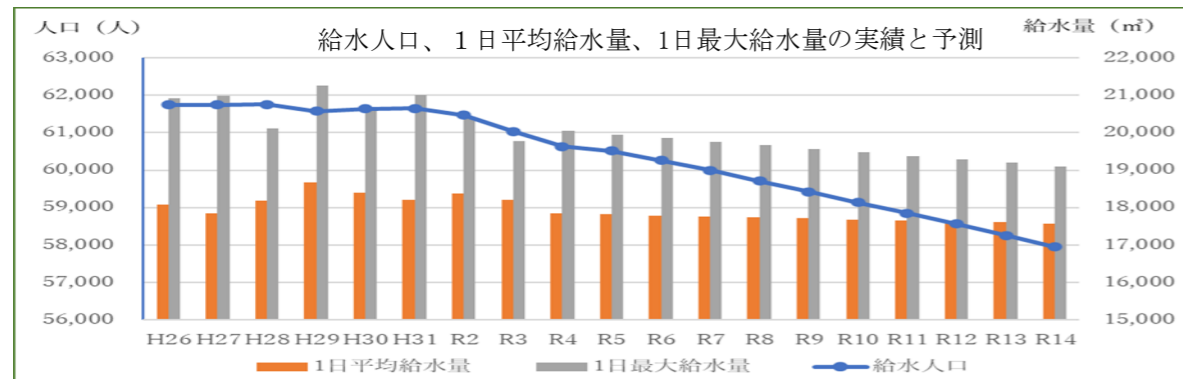


1. 経営戦略策定・見直しの趣旨

水道事業・公共下水道事業とも、人口減少等に伴う収入減の傾向が続く一方で、整備済み施設の老朽化が進み、施設の更新等に多大な費用が必要となってくるため、今後の経営状況は厳しいものとなることを見込まれます。このような中で、施設や管路の健全性を維持しながら将来にわたり事業を継続していくために、経営基盤の一層の強化と共に中長期的な視野で事業経営に取り組んでいくことが重要です。このため、中長期的な経営の基本計画として平成29年3月に策定した「経営戦略」を今回見直したものです。

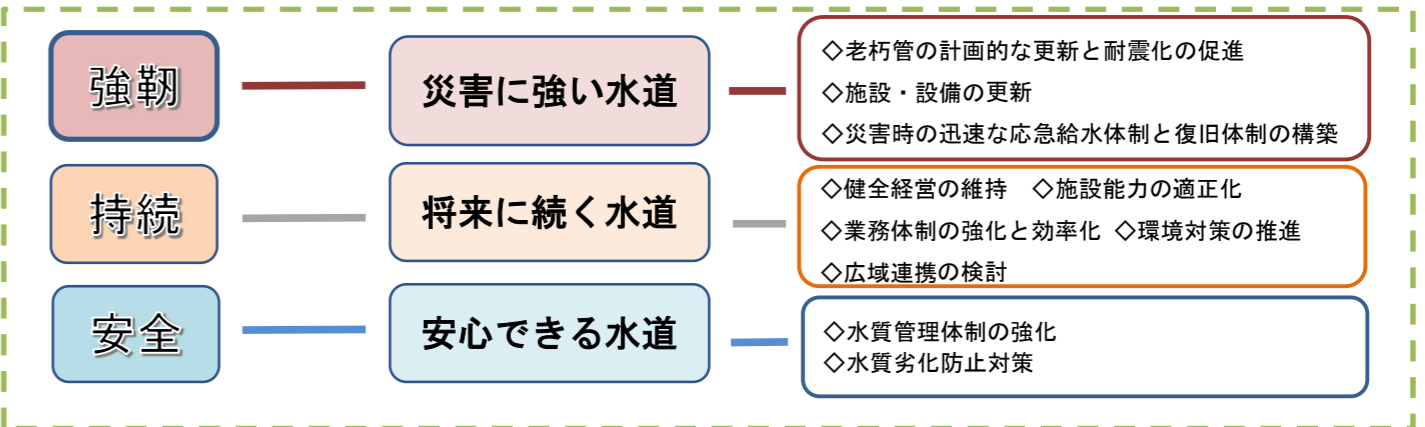
2. 水道事業の現況と課題

当市の水道水は、村山広域水道から受水して、八幡山配水池を起点に市内全域に送・配水しています。送配水施設管路延長は約485kmに及び、20年後には耐用年数を超える管路が多くなることから、アセットマネジメントによる計画的な更新を目指し、基幹管路の耐震化と老朽管の更新を進めていく必要があります。水道事業の経営については、施設の老朽化に伴い、更新に今後も多額の支出が必要となることを見込まれるのに対し、収入面では、給水人口の減少などにより料金収入は減少していきます。このため、適切な施策選択をするとともに、経営状況に即した適正な料金設定などの収入確保と支出の削減を柱とした効果的・効率的な事業の運営を図る必要があります。



3. 経営の基本方針

水道事業は、給水人口及び料金収入の減少、水道施設の更新・耐震化費用の確保、自然災害への対応等の課題に対応する必要がある中で、当市の水道事業の基本理念としている「天童市新水道ビジョン」に掲げる①「強靱」②「持続」③「安全」の実現に向けた取り組みを継続していきます。



4. 投資・財政計画

計画期間中の主な更新事業は表1の通りです。また、投資財政計画の概要は表2の通りです。

表1 ◆主な老朽管路耐震化更新事業予定・施設改築更新事業予定 (R5～R14)

事業名	事業内容	対象区域、施設
老朽管路耐震化更新事業	更新率 年1%を目標 (年に4～5 km)	久野本、北久野本、 交り江、柏木町 ほか
施設改築更新事業	電気設備更新	田麦野ポンプ場、天童高原ポンプ場 ほか
	機械設備更新	高掬水源地、山口加圧場、 天童高原ポンプ場 ほか

表2 (人口以外の単位：百万円)

区分・項目	R3 決算	R5 見込み	R8 見込み	R11 見込み	R14 見込み
給水人口 (人)	61,034	60,518	59,716	58,857	57,951
料金収入	1,327	1,305	1,288	1,269	1,250
経費 (受水費ほか)	677	659	666	673	676
減価償却費	526	537	589	609	638
経常損益	226	204	127	70	1
企業債発行額	0	0	323	377	400
建設改良費	621	1,220	621	712	834
企業債償還金	150	151	144	122	139
繰越利益剰余金	1,805	1,426	1,047	1,308	1,384
企業債残高	2,334	2,028	2,531	3,193	3,918

5. 効率化・経営健全化への取組

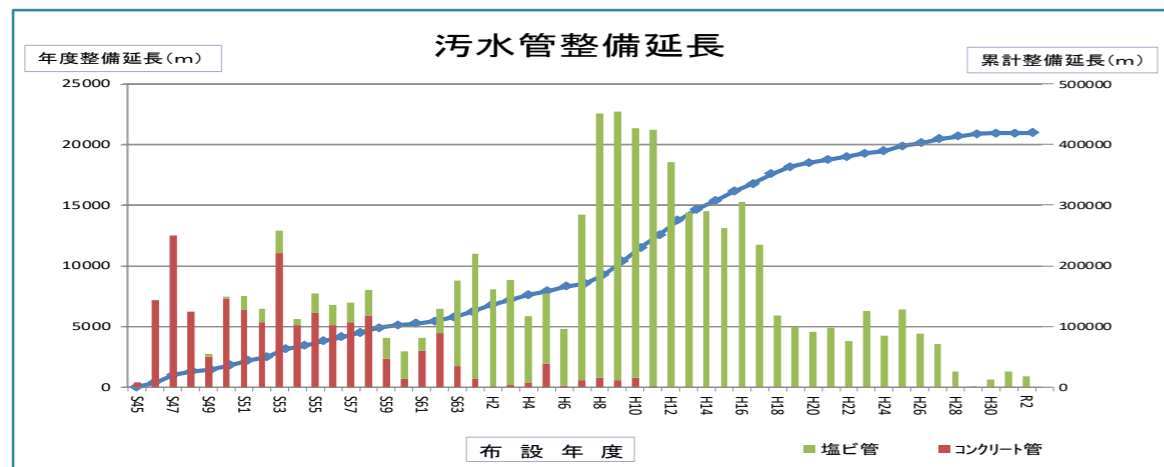
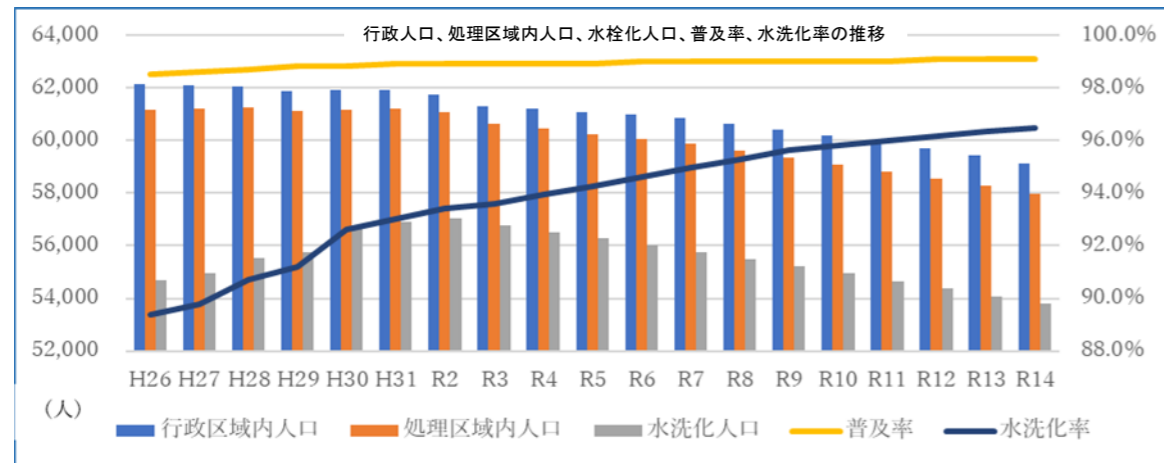
現行の水道料金体系については、平成20年7月から据え置いておりますが、今後、給水人口の減少とともに水道料金収入が徐々に減少していくことを見込まれることに加え、施設の更新等に伴う費用の負担が大きくなるため、10年後には利益及び内部留保資金が大幅に減少する見込みです。今後も定期的(3～5年毎)に料金の見直しを行い、料金改定の必要性和時期等について慎重に検討していきます。

6. 下水道事業の現況と課題

当市の公共下水道事業は、昭和45年度に中心市街地の整備に着手して、昭和49年4月に供用開始して以来、整備区域を順次拡大して水質汚濁の防止、快適で文化的な生活環境づくりを目指してきました。

令和4年度末における市内で公共下水道が利用できる割合（普及率）は98.9%となっています。また、実際に下水道を利用している割合（水洗化率）は94.2%となっており、一部残っている未整備箇所の解消を進めるとともに、普及促進を図っております。

供用開始から約50年となり既存施設が老朽化し、今後も更新のための支出が見込まれていますが、収入面では水洗化人口の減少により使用料収入の減少が見込まれています。



7. 経営の基本方針

下水道は、「都市の健全な発達、公衆衛生の向上、公共用水域の水質保全」という法の目的に基づき、経営の基本方針及び施策は次の3つです。

- ①事業の適切なマネジメント……健全経営の維持、ストックマネジメント、業務体制の強化と効率化、雨天時浸入水（不明水）対策、危機管理の確立
- ②下水道における循環システムの維持……下水道の適正利用、宅内排水設備からの雨天時浸入水（不明水）対策、雨水対策の推進
- ③下水道のPR・人材育成……下水道のPR・イメージアップ、技術継承や研修による人材育成、上下水道DXの活用・推進の検討

8. 投資・財政計画

計画期間中の主な更新事業は表3の通りです。また、投資財政計画の概要は表4の通りです。

表3 ◆ストックマネジメント計画の点検調査・改築基準

施設名称	対象数量	調査（点検）頻度	改築の判断基準
汚水管渠（ヒューム管）	105.1 km	幹線等 15 年、その他 20 年	緊急度判定で改築検討
汚水管渠（塩ビ管）	319.2 km	幹線等 20 年、その他 30 年	〃
雨水管渠	34.0 km	30 年	〃
マンホールポンプ	29 箇所	毎年点検	健全度判定で改築検討
マンホール蓋	10,320 枚	時間計画保全施設（標準耐用年数の 1.5 倍で改築検討）	

表4 (人口以外の単位：百万円)

区分・項目	R3 決算	R5 見込み	R8 見込み	R11 見込み	R14 見込み
処理区域内人口（人）	60,621	60,087	59,258	58,373	57,440
収 料金収入	1,021	1,002	988	973	957
益 一般会計繰入金	267	134	124	123	138
的 経費（流域負担金ほか）	351	402	403	403	408
収 減価償却費	885	882	885	891	900
支 経常損益	173	39	27	17	1
資 企業債発行額	355	275	479	512	548
本 一般会計繰入金	221	213	219	168	62
的 国交付金	95	54	47	50	54
収 建設改良費	471	396	532	568	608
支 企業債償還金	971	949	835	608	441
繰越利益剰余金	824	813	641	698	714
企業債残高	10,849	9,453	8,198	7,640	7,783

9. 効率化・経営健全化への取組

現行の下水道料金体系については、平成20年7月から据え置いておりますが、今後、水洗化人口の減少とともに下水道使用料が徐々に減少していくことが見込まれる中で、施設の維持・更新は継続していく必要があるため、10年後には単年度利益と内部留保資金が減少する見込みです。

今後も定期的（3～5年毎）に料金の見直しを行い、料金改定の必要性和時期等について慎重に検討していきます。

10. 経営戦略の事後検証

経営戦略で掲げた施策や取組を今後も確実に実施していくために、目標の達成度や事業の進捗度を評価し、取組方法を改善していくなどの進捗管理を定期的（3～5年）に行っていくことが必要です。進捗管理はPlan（計画）、Do（実行）、Check（点検・評価）、Action（改善）、そして再度Planに戻るというPDCAサイクルの一連の流れにより行います。